北村秀行の“チャーマス・ブレイン”
“Char Mas.Brain”

連載 第123回

フエダイ属の仲間

フエダイ属は種類が多い。いまだに新種が同定され、種類が年々増えている。今回は「パプアンバス」と呼ばれるゴマフエダイ、スポットテールバス、ウラウチフエダイのほかにバラフエダイを紹介してもらおう！

解説●北村秀行

フエダイ属（*Lutjanidae*）は全70種いて、年々増えている。和名のある魚種だけでも25種いる。海洋温暖化で、熱帯海域の魚が北上しているようだ。２０１０年に西表島で捕獲されて和名が付いたイモトフエダイもいる。今回は和名のある種類や気になる種類を説明していく。

パプアンバスと呼ばれる3種のうち1種類はゴマフエダイだった！

パプアニューギニア、ニューブリテン島のカンドリアンで、イソマグロ、ロウニンアジ、キハダを声ノ湖にあるような船外機20馬力エンジン付の20フィートのボートで攻めていた時、パプアンバスを釣りに来たオーストリア人にたまに会うことがある。

●ゴマフエダイ
パプアンバス3種類のうちの1種類。河口、汽水域に生息し、マングローブジャックとも呼ばれる。最大 150㎝を超えるらしい

そのときのガイドは3種類の魚をパプアンバスと呼んでいた。河口のワンドで小型が釣れたので見ると、「この魚はゴマフエダイ?」と思ったら、そのとうりであった。マングローブジャックと呼ばれている魚だ。

スポットテールバス（学名：*Lutjanus fuscescens*）、パプアンブラックバス（学名：*Lutjanus goldiei*）、和名でウラウチフエダイ）とゴマフエダイの3種をパプアンバスと呼んでいたがたいていパプアンバスはスポットテールバスとパプアンブラックバスをいう）。このうち日本にも2種が生息する。

●スポットテールバス
パプアンバス3種類のうちの1種類。淡水に生息するフエダイ属。20kg以上に成長する

フエダイ属はシガテラ毒に注意！

このフエダイ属で代表的なのが、ロウニンアジ釣りの時にトッププラグにもバイトしてくるバラフエダイ。バラフエダイは引きが強く、同属のパプアンバスと引けを取らないほど暴れる。もっと人気があってもいいと思うが、「何だ、バラフエだ」と言われてしまう魚だ。

シガテラ毒を持つ個体が多く、東京都市場衛生検査所長通知による指導対象の魚介類に入っている。魚食民族なので、食べられないと人気がないのは致し方ない。

シガテラ中毒の症状は、食後30分から数時間ほどで現れる。消化器系、循環器系、神経系等に様々な異常が起こる。主症状はシガトキシンとマイトトキシンが起こす神経症状だ。ドライアイスセンセーシ

●ウラウチフエダイ
パプアンバス3種類のうちの1種類。パプアンブラックバスとも呼ばれる。熱帯の汽水域から淡水域まで生息する。日本の西表島にも生息する

ョン（温度感覚の異常）と呼ばれ、暖かいものを冷たく感じたり、電気が走るような感じになったりする。

また、掻痒、四肢の痛みで、筋肉痛、関節痛、頭痛、めまい、脱力、排尿障害等も起り、循環器系症状（不整脈、血圧低下、徐脈等）も呈することがある。軽症では1週間程度で治まるが、重症の場合は数ヶ月から1年以上継続することもある。死亡例は極めて稀だが、幼児、老齢者だと体力に負担がかかって衰弱する。

最近の研究でシガテラ毒素はシガトキシンとマイトトキシンと判明。これらを作るのは、石灰藻等の海藻の表面に付着しているプランクトンの一種である渦鞭毛藻。食物連鎖により魚の筋肉や内臓に蓄積される。毒性は魚の種類、個体、生息場所、時期などで異なる。藻食魚より肉食魚、小さい魚より大きい魚ほど毒性が高くなるようだ。

石灰藻等の海藻を捕食するカニや藻食魚、それを捕食するブダイ類、イシガキダイ、ハタ類、フエダイ類、フエフキダイ類で南方の浅場にいる大型魚は要注意だ。

●ゴマフエダイ
紅海からスエズ運河を通り、地中海に進出した種

ゴマフエダイはウラウチフエダイに似る

◆ゴマフエダイ（胡麻筆鯛）

学名：*Lutjanus argentimaculatus*

英名：Mangrove jack

成魚は太平洋側の紀伊半島以南、長崎、五島列島近海、琉球列島～インド、西太平洋、北南オーストラリア、東アフリカ、紅海。スエズ運河から侵入し地中海（東部）にも生息する。幼魚は房総半島以南でも見られるが、大型個体は流れの緩やかな河川の河口、淡水域にも進入する。シャローレンジから水深120ｍまで生息する。

成魚の体色は緑褐色で、鰭や腹部は赤みを帯びるが、死ぬと全身が赤っぽくなる。若魚は濃い緑褐色の地に白っぽい横縞が6～14本入る。側線より上の鱗は側線とほぼ平行に走り、背鰭前半と腹鰭が鮮やかな橙色をしている。ウラウチフエダイに似るが、ウラウチフエダイの体側横帯は幅が広く、背鰭軟条部が薄黄色という点で区別できる。

底生生物、小魚や甲殻類を食べる肉食性。最大150㎝、寿命31年。

各鱗の中心に黒っぽい点があり、胴に黒い点が並んでいるように見える。この斑点が胡麻を散らした様子に見立てて名が付いた。英名のマングローブジャックも良い名だ。

干潟のオヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ等のマングローブ林にいる小生意気な魚、そんな意味合いだ。

熱帯域では食用の重要産業魚種。白身で味が良く、高値で取引されている。大型個体ではシガテラ毒があるので要注意！

沖縄諸島や南西諸島の沖釣りに行き、時化で船が出ないとき、河口部や湾内でライトタックルで狙うとおもしろい。強烈な引きで緊張するが、サイズは30～40㎝が多い。

体長1mにも成長するバラフエダイ！

◆バラフエダイ（薔薇筆鯛）

学名：*Lutjanus bohar*

英名：Two-spot red snapper

熱帯域の残海に多く、琉球列島、南大東島、尖閣諸島、小笠原諸島、沖ノ鳥島～インド～太平洋、北南オーストラリアの沿岸、サンゴ礁、岩礁域の水深100ｍ以浅に生息。肉食性で魚類や無脊椎動物を捕食する。

幼魚には体側背部に2つの目立つ白色斑があり、成長すると消えてしまう。尾鰭の上・下葉に暗色線があり、スズメダイの仲間と似て、一緒に行動している。成魚の体色は暗い赤色で、体側には目立つ横帯や縦帯などはない。頭部に細長い溝があり、鼻孔はその中に開口する。側線より上の鱗列はすべて斜め上後方に向かい、体側下半分の鱗は体軸とほぼ平行。

大型種で成魚は体長1ｍを超える。小笠原、母島の磯で15・8㎏が釣られている。寿命55年。

沖縄県などでは食用魚として流通し、味が良い魚でやや高値である。ただしシガテラ毒を持つ個体があり注意が必要だ！

ルアーに良く反応し、岩礁、サンゴ礁域でよく釣れる。目が金目で山羊の目のようで不気味感がある。別名アカドクタルミ、幼魚はフタツボシドクギョとも呼ばれる。

●バラフエダイ
サンゴ礁をプラグで攻めていると、赤い大型がトップでバイトする

●Profile
北村秀行 きたむらひでゆき

1946年9月8日生まれ。
“チャーマス”の愛称で親しまれ、この人なくして今の日本のソルトウォーターオールアーフィッシングの発展はないと言っても過言ではない。魚やタックル、そして自然など、釣りに関係するありとあらゆる物事に対する豊富な知識から導き出される卓越したフィッシング理論には定評がある。クラブビッグワンズ代表。tailwalk スーパーバイザー